DJ-PHM20 基本設定マニュアル

アルインコ株式会社
電子事業部

はじめに…

この度はアルインコ特定小電力ヘルメット用トランシーバー DJ-PHM20 をお買い上げいただきまことにありがとうございます。
このマニュアルは付属の取扱説明書にある設定スイッチ類の内容を補完します。各機能の説明と操作方法を詳しくイラスト入りでご説明します。
ご使用前に付属の取扱説明書と合わせて、必ずお読みください。

本資料の使用に関して……

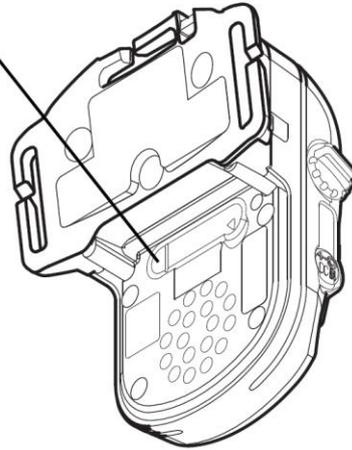
商標等について………

重要なご注意…………

付属の取扱説明書にあるチャンネルやグループ番号などを自分で設定していない方は、このセットモード設定も変更しないでください。本機は設定を表示する液晶がないので、設定状態が分かりにくくなっています。誤って設定の変更やリセットした場合に「もとに戻したい」と相談されても、もとの設定が分からないためサポートができません。
管理者が居なくなった、誰が設定したか分からない、というときはすべての無線機をリセットして、新たに同じ設定に合わせこむのが一番早くて確実な方法です。DJ-PHM20 どうしであれば、1 台だけ設定したらその状態をエアクローン機能で簡単にほかの個体にコピーできます。別紙の特殊設定モードマニュアルをお読みください。

目次

1. 設定スイッチについて

下図の通り本体背面の防水キャップを取り外してスイッチを操作してください。
スイッチの切り替えはペンの先などをお使いください。先端が鋭利なものはスイッチの故障の原因となります。
設定完了後は防水キャップをもと通りに取付けてください。正しく閉じておかないと浸水して故障します。

2. 設定スイッチ表

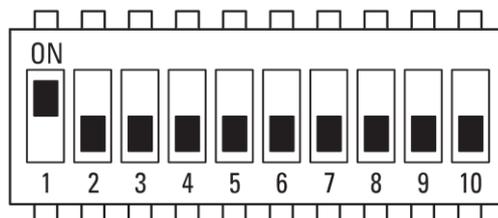
項目		初期値
1番	グループトーク	OFF
2番	通話方式※1	下表参照
3番		
4番	コンパンダー（雑音低減）	OFF
5番	PTTホールド（送信保持）	ON
6番	VOX（音声検出送信）	OFF
7番	コールバック	OFF
8番	スタートピー、エンドピー※2	ON
9番	ビープ音、音声ガイダンス	ON
10番	音声ループ	OFF

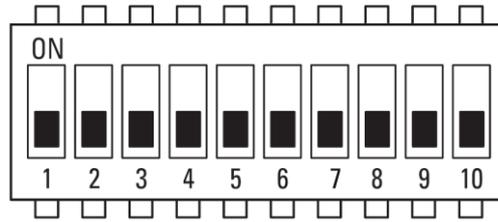
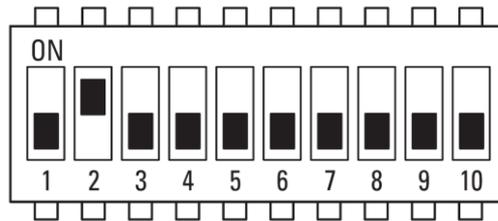
3. 基本設定項目

項目の後ろの交（互）、中（継）、同（時）、3（者同時），4（者同時）は該当する通話モードです。設定するモードに該当する項目だけお読みください。全、は全ての通話モードです。必ずお読みください。

3-1　グループトーク　:交、中、同

設定値　オフ/オン（初期値:オフ）

1 番スイッチは交互、中継、（2 者）同時通話時にグループトークを使うときオン側にします。同じグループ番号に設定したトランシーバーの音声だけが聞こえます。混信やノイズを聞かずに済むメリットがあります。グループ番号は付属の取扱説明書を参考にキー操作で選択します。ユーザーグループ全員を同じ番号に合わせてください。秘話機能ではありません。設定していない人は全員の通話を受信できます。3，4 者同時通話は設定不要です。

3-2 通信方式: 全

設定値 3 者同時通話/交互通話･中継通話/同時通話/4 者同時通話･(初期値:3 者同時通話)

3 者同時通話

交互通話･中継通話

同時通話

4 者同時通話

メモ ･3 者同時通話を始めるとき、複数の人が同時に [PTT] キーを押すと通話が成立しません。順番に [PTT] キーを押してください。

① 1 人目（親機）が送信ボタン[PTT]を押す ② 終わったら 2 人目（子機 1）が[PTT]を押す

③ 3 人目（子機 2）も[PTT]を押したら 3 者同時通話になります。

[PTT] キーを押すタイミングが重なり通話に失敗したときは、一旦送信を停止して 2 秒待ってからやり直してください。

･3 者同時通話モードでは、初期状態でビジネス (b) チャンネル、Lo パワー に設定されており 3 分制限のない連続通話ができます。

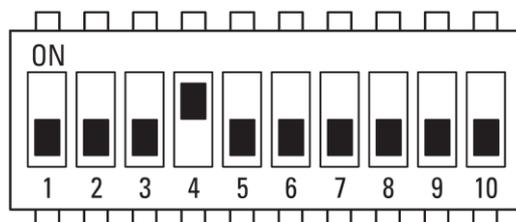
･3 者同時通話の動作上の理由から、2 人（親機と子機 1 台）が至近距離にあると電波干渉により 3 人目（子機 2）の信号を受信しづらくなることがあります。それぞれ 10m 以上離れてください。

･ 親機と子機 1 台の距離が遠く、受信信号が弱くなると全員の受信音に雑音が混入することがありますが異常ではありません。

･ 交互通話の中継通話モードには別途中継器が必要です。他社製中継器をお使いなど特殊な場合は周波数方向が B(440MHz 受信／421MHz 送信)になっていることを確認してください。弊社製中継器をお使いであれば周波数方向は中継器の初期値のまま変更しないでください。

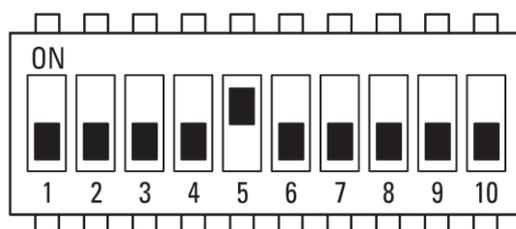
・組み合わせが複雑なので敢えて記載しませんが、例えば＊＊通話と●●通話は同じスイッチで設定できることがあります。もし説明と実際の動作が食い違っても異常ではありませんし、故障の原因にもなりませんが、通話モード設定は正しく行っておくことをお勧めします。

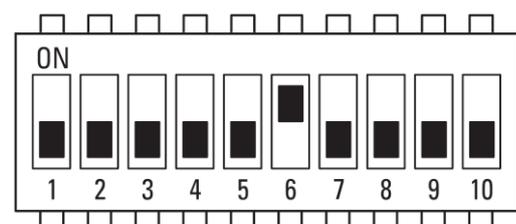
3-3 コンパンダー（雑音低減）: 交、中、同
設定値 オフ/オン（初期値 オフ）

4 番スイッチをオン側にするとコンパンダーが動作します。通話中に聞こえる「サー」というかすかなバックノイズを低減することができます。

メモ 3 者/4 者同時通話時は自動的にオンに設定されます。このスイッチ操作は不要です。

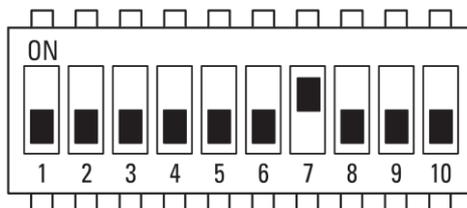
注意 コンパンダー機能のないトランシーバーと通話する場合にはオン側にしないでください。かえって音質が悪くなることがあります。

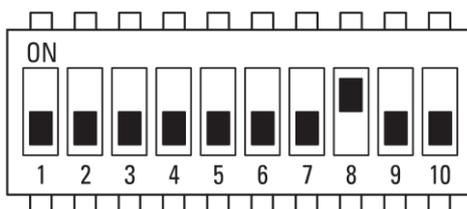
3-4 PTT ホールド（送信保持）: 全
設定値 オフ/オン（初期値 オン）

5 番スイッチをオン側にすると PTT ホールド機能が使えなくなります、PTT キーを押しているあいだ送信、放すと待ち受け状態になります。交互通話で短い連絡通話をひんぱんにするときはこちらのほうがてきぱきして使いやすくなることがあります。用途に合わせてお試しください。

3-5 VOX（音声検出送信）: 全
設定値 オフ/オン（初期値 オフ）

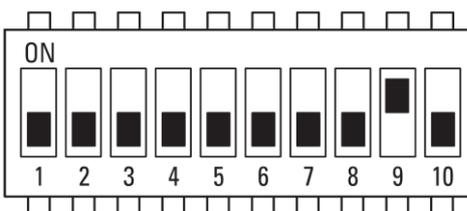
6 番スイッチをオン側にすると VOX 機能が使えます。PTT キーを押さず、音声で送受信を切り替えられます。マイクに音声が入ると送信、音声がなくなれば待ち受け状態になります。

注意 ・話している音声以外で誤送信してしまうような、騒音が大きな場所では使用できません。
・VOX は送信開始までに若干の遅延が起きたり、息継ぎで黙ると受信に戻ったり、と話し方に慣れが必要になります。本機には PTT と併用したり、黙っても送信状態を保持したり、といったアシスト機能が採用されています。セットモードの詳細説明の VOX 条件をご参照ください。

3-6 コールバック(音声モニター): 全 (但し別売イヤホン使用時)
設定値 オフ/オン(初期値 オフ)

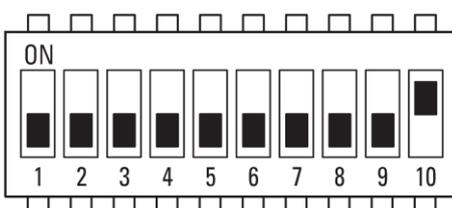
7 番スイッチをオンにするとコールバックが設定されます。送信中にイヤホンから自分の送信音声が聞こえます。正しく送信できているか確認しながら通話できます。

3-7 スタートエンドピー(送信開始/終了音): 全
設定値 オフ/オン(初期値 オン)

8 番スイッチをオン側にすると、PTT キー押した時に「ピピッ」とスピーカーもしくはイヤホンから鳴るビープ音と、「ピッ」と鳴って通話相手に送信が終わったことを伝えるビープ音が鳴らなくなります。
自機のビープ音を相手無線機に聞かせないもので、相手側もオン側にしないと、 相手無線機のビープ音が聞こえてしまいます。

注意 連結中継モードではスタートエンドピーは設定できません。

3-8 ビープ音+音声ガイダンス: 全
設定値 オフ/オン(初期値 オン)

9 番スイッチをオン側にすると操作時のビープ音と一部の音声ガイダンスが鳴らなくなります。

メモ オン側にしても、基本設定するのに必要な音声ガイダンスを切ることはできません。

3-9 ループ(第三者受信): 同時通話限定
設定値 オフ/オン(初期値 オフ)

オン側にすると、通話を第三者が聞けるようになります。例えばAとBが同時通話している中でCが両方(AとB)の通話を聞けるようになります。

注意 第三者受信や通話者の任意変更をしないのであれば、設定は不要です。